

第26期報告書

(平成18年4月1日から平成19年3月31日まで)



不二サッシ株式会社

株主の皆様へ



株主の皆様にはますますご清栄のこととお慶び申し上げます。
また、平素より格別のご支援ご愛顧を賜り、誠に有り難うございます。
私ども不二サッシグループは、アルミサッシのパイオニアとして、常にビル、住宅における快適な環境づくりを提案してまいりました。
昨年、当社グループは、事業構造の見直し、グループ再編を行い、事業収益性の向上を推し進めるため、「中期経営4ヵ年計画」を作成し、健全な財務体質の確立と事業構造の変革、経営管理体制の変革に向けて注力しております。
このたび、当社の第26期（平成18年4月1日から平成19年3月31日まで）が終了いたしましたので、事業の概況をご報告申し上げます。

当期の概況

当連結会計年度におけるわが国経済は、原油価格や原材料価格の上昇など不安定要因を抱えながらも、好調な企業業績を背景に設備投資の増加など緩やかな景気の拡大傾向が持続いたしました。

一方、アルミ建材業界におきましては、アルミ地金価格の高止まりに加えて、特に、当社グループの主力であるビル用建材品市場においては、非木造建築物着工床面積は増加基調で推移したものの、公共投資の低迷など厳しい市場環境が続いております。

このような経営環境のもと、当社グループは、新商品などの販売促進に努めるとともに、形材外販事業や環境事業、ユニットハウス・非常時対応型トイレなど非サッシ事業分野の拡大に注力してまいりました。更に、コストダウンおよび利益確保に重点を置いた経営にグループを挙げて取り組み、業績向上に懸命の努力を重ねてまいりました。加えて、自助努力で吸収できる限界を超えたアルミ地金価格の高騰に対処すべく価格改定を行い、浸透を図っております。

また、当社グループは、「中期経営4ヵ年計画（平成18年度～21年度）」を推進しておりますが、初年度の当期は、減資と剰余金の取崩しおよび固定資産の売却等により、懸案であった繰越損失を一掃した他、大幅に有利子負債の圧縮を図るなど、財務体質の強化を果たすことができました。一方、グループ全体の最適化と効率化も推進しておりますが、グループ再編の一環として、九州地域でのビル建材事業を一体化させるため「九州地域製販一体新会社」を平成18年10月1日に発足させました。

この結果、連結売上高は1,289億4千9百万円（前期比7.0%増）となり、連結経常利益は18億5百万円（前期比214.1%増）となりました。また、連結当期純利益は87億4千万円（前期比274億6千6百万円増）となり、売上高・利益共に前期比増収増益、前期の当期純損失から転じて当期純利益を計上することができ、「中期経営4ヵ年計画」初年度の当期において順調なスタートをきることができました。

対処すべき課題

内外の諸情勢からみて、今後とも厳しい企業環境が予想されますが、当社グループは、引き続き契約適正化の推進や更なる合理化・総コストの削減などを図る一方、顧客ニーズ・市場動向に合わせた新商品の開発による販売促進に注力してまいります。また、膨大なストック市場を見据えたりリニューアル事業への取り組み強化により、主力事業であるビル建材事業の増強を図るとともに、形材外販事業については、新たな用途先の開拓や高付加価値のアルミ加工品・アルミ精密加工品に注力するなど第二のコア事業に育ててまいります。今後とも、当社グループを挙げて売上増強、収益向上を強力に推進してまいります。

また、当社グループは、「中期経営4ヵ年計画（平成18年度～21年度）」を推進していくなかで、事業構造の見直し、グループの再編等を行い、事業収益力の向上を目指しておりますが、初年度は、財務の健全化ならびに売上・利益目標を達成し順調なスタートをきることができました。引き続き、「中期経営4ヵ年計画」の達成に向けて、安定的な収益基盤の確立、強固な財務体質の構築等を目指し、営業力の強化や

経営管理体制の変革などグループ経営の見地に立った施策を積極的に展開してまいります。

なお、当社は遺憾ながら無配を継続させていただいております。復配の早期実現を経営の最重要課題の一つと認識し、全社一丸となって取り組んでおります。

株主の皆様におかれましては、今後とも変わらぬご支援とご理解を賜りますようお願い申し上げます。

平成19年6月

取締役社長

嵯峨 明

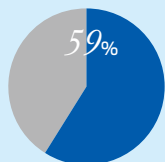
ビル建材事業

BUILDING

● 主要製品名

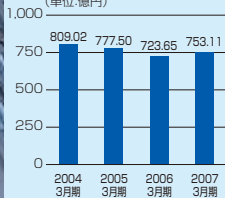
カーテンウォール、ビル用サッシ・ドア、中低層用サッシ・ドア、改裝用サッシ等

売上高構成比

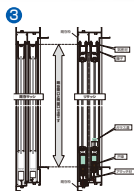


連結売上高推移

(単位:億円)



● 事業トピックス



市場環境と業績

主力のビル建材事業においては、受注競争の激化やアルミ地金等原材料価格の高騰という悪条件の中、好調だった前期受注分が寄与したことで利益確保に重点を置いた営業活動の強化や合理化等により増収増益を達成しました。特に営業利益は前期比21.6%増と大幅な増益となりました。

① 高層マンション用隔て板「スペースボード」

マンション等の高層階のバルコニーに取り付け可能な隔て板「スペースボード」を発売しました。「スペースボード」は高層階で求められる強風に耐えうる強度と、緊急避難時に求められるボードの破壊しやすさ、という相反する性能を、種々の検証試験を実施することで同時に実現しました。さらに、多様化するバルコニーの形状に対応するため、奥行きが1850mmまで取り付け可能な連結タイプも商品設定することで、高層階にとどまらず中低層マンションにおいても幅広くお使いいただける商品としました。

② スリムカーテンウォール「NSR-SLIM」

透明感のあるシャープなファサードのカーテンウォール「NSR-SLIM」を発売しました。「NSR-SLIM」は、方立・無目の見付寸法を55mmとし、さらに可動ユニット部の外観・内観意匠をFIX部と合わせ、意匠の統一化を実現しました。また、ガラス溝幅を46mmとすることで、断熱性能の高い空気層12mmの複層ガラス対応も可能にした、環境とデザインに配慮した商品です。

③ 改裝サッシ「リサッシKJ」を新発売

従来の改修工法とは全く異なる新しい改裝商品として「リサッシKJ」を発売しました。「リサッシKJ」は、UR都市機構の前身である日本住宅公団が昭和38年より採用を開始したアルミサッシ(KJサッシ)のガラス戸のみを交換することで、サッシの諸性能を回復・向上させ、さらに時代の要請に応える3R (Reduce・Reuse・Recycle) を実現した当社が目指す循環型企業による環境に配慮した商品です。また、当製品は上記UR都市機構のみならず同様のKJ製品に対応するものです。

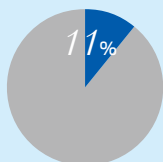
住宅建材事業

HOUSING

● 主要製品名

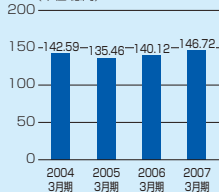
住宅用サッシ、玄関引戸・ドア、室内建具、エクステリア製品等

売上高構成比



連結売上高推移

(単位:億円)



● 事業トピックス



① 横引きアルミシャッター「シエスタV」上げ下げ窓用片引きタイプ

2005年に発売しました横引きアルミシャッター「シエスタV」に、上げ下げ窓用として片引きタイプを発売いたしました。

近年、シンプルデザインを基調とした住宅建設が取り上げられ、上げ下げ窓の採用が増加傾向にあります。このような住宅で引き違い窓と上げ下げ窓が同時に採用されたとき、シンプルデザインを実現した「シエスタV」は、防犯性や飛来物へのプロテクト効果を可能にし、窓機能の違いに対して統一したスタイルを実現します。



② リフォーム用勝手口ドア「リドア」

防犯性を飛躍的に向上させた自然換気機構付きドア「ウィンリッシュS」として2004年に発売開始し、ビル・マンション用にも展開をした防犯採風ドアをベースに、リフォーム用勝手口ドア「リドア」を開発し発売いたしました。現在、特定ハウスメーカーのリフォーム商品として供給を開始しご好評いただいております。



市場環境と業績

住宅建材事業においては、ハウスメロッパー等直需先への営業強化により売上高は前期比4.7%増と健闘しましたが、収益面では、アルミ地金等原材料価格の高騰により価格改定を行いました。浸透に時間がかかっており営業損失の止むなきに至りました。

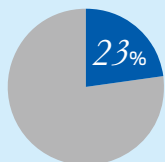
型材外販事業

MATERIAL

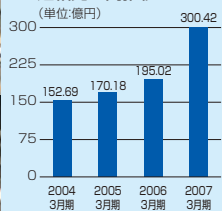
● 主要製品名

アルミ型材、アルミ精密加工品

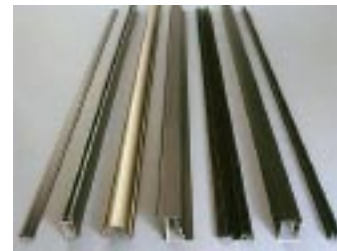
売上高構成比



連結売上高推移



● 事業トピックス



市場環境と業績

型材外販事業においては、従来商品の建材関連市場向け一般型材の売上が順調に伸びたことに加えて、他社に先んじた技術力と新規需要先に対する販売拡大努力によりアルミ精密加工品・アルミ加工品分野が大きく伸び、収益増大に貢献しました。

型材外販事業は、プレハブ住宅向け型材、手すり、面格子、簡易間仕切、エクステリア材等の建材関連市場向け型材や、アルミの特徴である美観、形観、加工性等をいかしたFPD、太陽光、自動車向けの「アルミ精密加工品事業」にも積極的に取り組み、新規需要先に対する開発営業力の強化を図っております。

これら型材外販事業は、当社グループの九州不二サッシ株式会社が中核となって事業を展開しておりますが、今後は、当社グループ全体で販売拡大を目指してまいります。



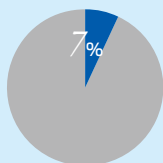
その他事業

OTHERS

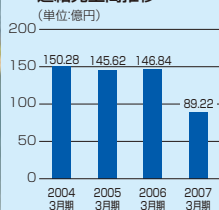
● 主要製品名

産業廃棄物処理プラント、産業廃棄物処理、運送、各種金属の表面処理、不動産事業等

売上高構成比



連結売上高推移



● 事業トピックス



① 民需向灰処理装置「ヴァレンミキサー」

灰処理設備「エフミキサー」に続く新商品として、「ヴァレンミキサー」の販売を開始しました。ヴァレンミキサーはシャフトを偏芯させることにより、ミキシング効果を高めた商品です。ヴァレンミキサーと制御盤をユニット化し、省スペース化および据付工事の負担を軽減できる設備として販売しています。

特に民間工事を中心とした焼却設備に重点的販売をしています。

② 粉じん防止剤「フライネットR」

マンション建設現場やゴミ焼却場などで発生する土ほこりや砂ほこりの飛散抑制を目的とした粉じん防止剤「フライネットR」を販売いたしました。

この商品は土壌などに希釈液を散水することにより表層面をコーティングし、外観は元の風合いを維持したまま粉じんのみを抑制します。

また、主原料には植物由来の天然素材を使用しており、人体や動植物に対し安全であることはもちろんのこと、自然界の生菌や紫外線により生分解するため使用後もゴミが出ず土壌に害を与えることもありません。

安全性が高いため散布適応場所は広範囲に渡りますが、建設現場などでは作業環境の改善や近隣住民への配慮などにもお役立ていただけます。



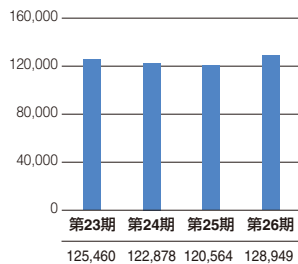
市場環境と業績

その他事業には、環境事業・産業廃棄物処理業・運送業等ありますが、産業廃棄物処理業の売上減と前年度第4四半期からアルミ精密加工品のセグメントを「その他事業」から「形材外販事業」に変更したことにより減収減益となりました。

財務ハイライト (連結)

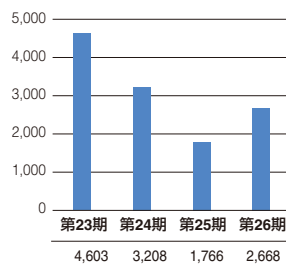
売上高

(単位: 百万円)



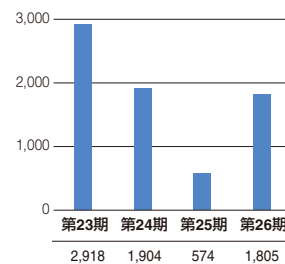
営業損益

(単位: 百万円)



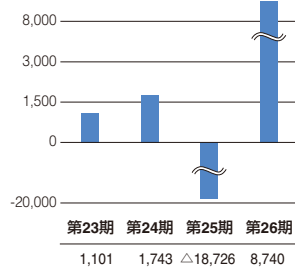
経常損益

(単位: 百万円)



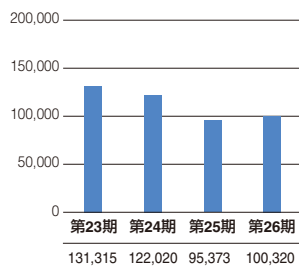
当期純損益

(単位: 百万円)



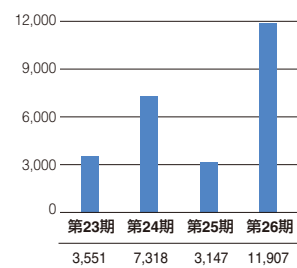
総資産

(単位: 百万円)



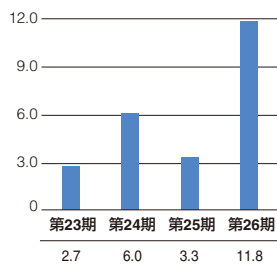
株主資本

(単位: 百万円)



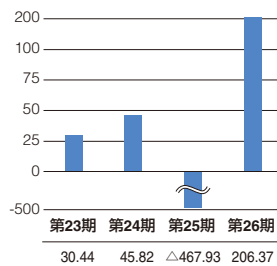
株主資本比率

(単位: %)



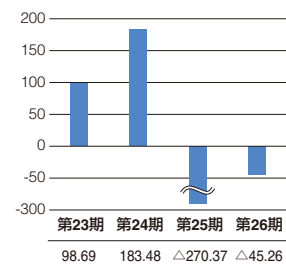
1株当たり当期純損益

(単位: 円)



1株当たり株主資本

(単位: 円)



連結決算の概要

連結貸借対照表

(単位：百万円)

科目	当連結会計年度 (平成19年3月31日現在)	前連結会計年度 (平成18年3月31日現在)	科目	当連結会計年度 (平成19年3月31日現在)	前連結会計年度 (平成18年3月31日現在)
資産の部			負債の部		
流動資産	63,476	52,929	流動負債	70,907	71,656
現金及び預金	11,976	8,153	支払手形及び買掛金	28,081	24,283
受取手形及び売掛金	30,043	26,745	短期借入金	31,179	39,599
たな卸資産	18,839	16,573	未払法人税等	235	302
繰延税金資産	87	71	前受金	6,030	3,689
その他	3,326	2,146	賞与引当金	613	551
貸倒引当金	△ 797	△ 760	役員賞与引当金	10	—
固定資産	36,843	42,444	工事損失引当金	76	115
有形固定資産	30,657	34,187	その他	4,680	3,114
建物及び構築物	10,261	11,631	固定負債	17,505	20,346
機械装置及び運搬具	4,109	3,937	社債	—	20
土地	14,620	16,722	新株予約権付社債	1,600	2,000
その他	1,666	1,896	長期借入金	4,244	6,680
無形固定資産	320	374	繰延税金負債	389	839
投資その他の資産	5,865	7,881	再評価に係る繰延税金負債	592	584
投資有価証券	3,228	5,169	退職給付引当金	9,466	8,512
長期貸付金	300	344	役員退職慰労引当金	—	237
繰延税金資産	427	377	連結調整勘定	—	66
その他	2,760	2,593	負ののれん	46	—
貸倒引当金	△ 850	△ 604	その他	1,166	1,405
資産合計	100,320	95,373	負債合計	88,412	92,003
			少数株主持分	—	223
			資本の部		
			資本金	—	15,678
			資本剰余金	—	7,022
			利益剰余金	—	△ 21,875
			土地再評価差額金	—	1,919
			その他有価証券評価差額金	—	1,219
			為替換算調整勘定	—	△ 811
			自己株式	—	△ 4
			資本合計	—	3,147
			負債、少数株主持分及び資本合計	—	95,373
			純資産の部		
			株主資本		
			資本金	1,102	—
			資本剰余金	220	—
			利益剰余金	8,951	—
			自己株式	△ 5	—
			株主資本合計	10,269	—
			評価・換算差額等		
			その他有価証券評価差額金	595	—
			土地再評価差額金	1,616	—
			為替換算調整勘定	△ 692	—
			評価・換算差額等合計	1,519	—
			少数株主持分	118	—
			純資産合計	11,907	—
			負債純資産合計	100,320	—

連結損益計算書

(単位：百万円)

科目	当連結会計年度 (平成18年4月1日から 平成19年3月31日まで)	前連結会計年度 (平成17年4月1日から 平成18年3月31日まで)
	売上高	128,949
売上原価	110,231	102,682
売上総利益	18,718	17,881
販売費及び一般管理費	16,050	16,115
営業利益	2,668	1,766
営業外収益	517	553
受取利息	44	45
受取配当金	45	72
連結調整勘定償却額	—	59
負ののれん償却額	29	—
持分法による投資利益	14	6
保険配当金	127	126
その他	255	242
営業外費用	1,380	1,744
支払利息	1,150	1,508
手形売却損	111	135
その他	118	100
経常利益	1,805	574
特別利益	9,726	1,069
固定資産売却益	9,540	—
投資有価証券売却益	153	997
その他	32	72
特別損失	2,589	26,759
固定資産売却除却損	808	679
販売用不動産評価損	67	—
減損損失	533	25,263
たな卸資産除却損	609	—
環境対策費用	450	—
その他	120	816
税金等調整前当期純利益	8,942	△ 25,114
法人税、住民税及び事業税	261	293
法人税等調整額	△ 68	△ 6,666
少数株主利益	9	△ 15
当期純利益	8,740	△ 18,726

連結株主資本等変動計算書

(単位：百万円)

当連結会計年度 (平成18年4月1日から平成19年3月31日まで)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
平成18年3月31日 残高	15,678	7,022	△ 21,875	△ 4	820
連結会計年度中の変動額					
資本準備金の取崩		△ 7,000	7,000		—
新株予約権付社債の行使	201	198			400
利益処分による役員賞与			△ 12		△ 12
当期純利益			8,740		8,740
自己株式取得				△ 0	△ 0
減資	△ 14,777		14,777		—
土地再評価差額金の取崩			321		321
株主資本以外の項目の連結 会計年度中の変動額(純額)					
連結会計年度中の変動額合計	△ 14,575	△ 6,801	30,827	△ 0	9,448
平成19年3月31日 残高	1,102	220	8,951	△ 5	10,269

	評価・換算差額等				少数株主 持分	純資産 合計
	その他有 価証券評 価差額金	土地 再評価 差額金	為替換算 調整勘定	評価・換算 差額等合計		
平成18年3月31日 残高	1,219	1,919	△ 811	2,326	223	3,370
連結会計年度中の変動額						
資本準備金の取崩						—
新株予約権付社債の行使						400
利益処分による役員賞与						△ 12
当期純利益						8,740
自己株式取得						△ 0
減資						—
土地再評価差額金の取崩						321
株主資本以外の項目の連結 会計年度中の変動額(純額)	△ 623	△ 302	119	△ 807	△ 104	△ 911
連結会計年度中の変動額合計	△ 623	△ 302	119	△ 807	△ 104	8,536
平成19年3月31日 残高	595	1,616	△ 692	1,519	118	11,907

単体決算の概要

貸借対照表

(単位：百万円)

科目	当期	前期
	(平成19年3月31日現在)	(平成18年3月31日現在)
資産の部		
流動資産	37,189	30,965
固定資産	31,850	36,305
有形固定資産	18,719	21,137
無形固定資産	114	136
投資その他の資産	13,015	15,031
資産合計	69,040	67,270
負債の部		
流動負債	49,439	52,439
固定負債	9,859	12,901
負債合計	59,298	65,341
資本の部		
資本金	—	15,678
資本剰余金	—	7,000
利益剰余金	—	△ 21,777
その他有価証券評価差額金	—	1,032
自己株式	—	△ 4
資本合計	—	1,929
負債・資本合計	—	67,270
純資産の部		
資本金	1,102	—
資本剰余金	198	—
利益剰余金	8,015	—
自己株式	△ 5	—
株主資本合計	9,311	—
評価・換算差額等	429	—
純資産合計	9,741	—
負債純資産合計	69,040	—

損益計算書

(単位：百万円)

科目	当期	前期
	(平成18年4月1日から 平成19年3月31日まで)	(平成17年4月1日から 平成18年3月31日まで)
売上高	80,563	79,983
営業費用	79,273	78,707
営業利益	1,289	1,275
営業外収益	693	829
営業外費用	1,151	1,556
経常利益	832	548
特別利益	9,485	955
特別損失	2,418	26,565
税引前当期純利益	7,899	△ 25,061
税金費用	△ 115	△ 5,772
当期純利益	8,015	△ 19,289

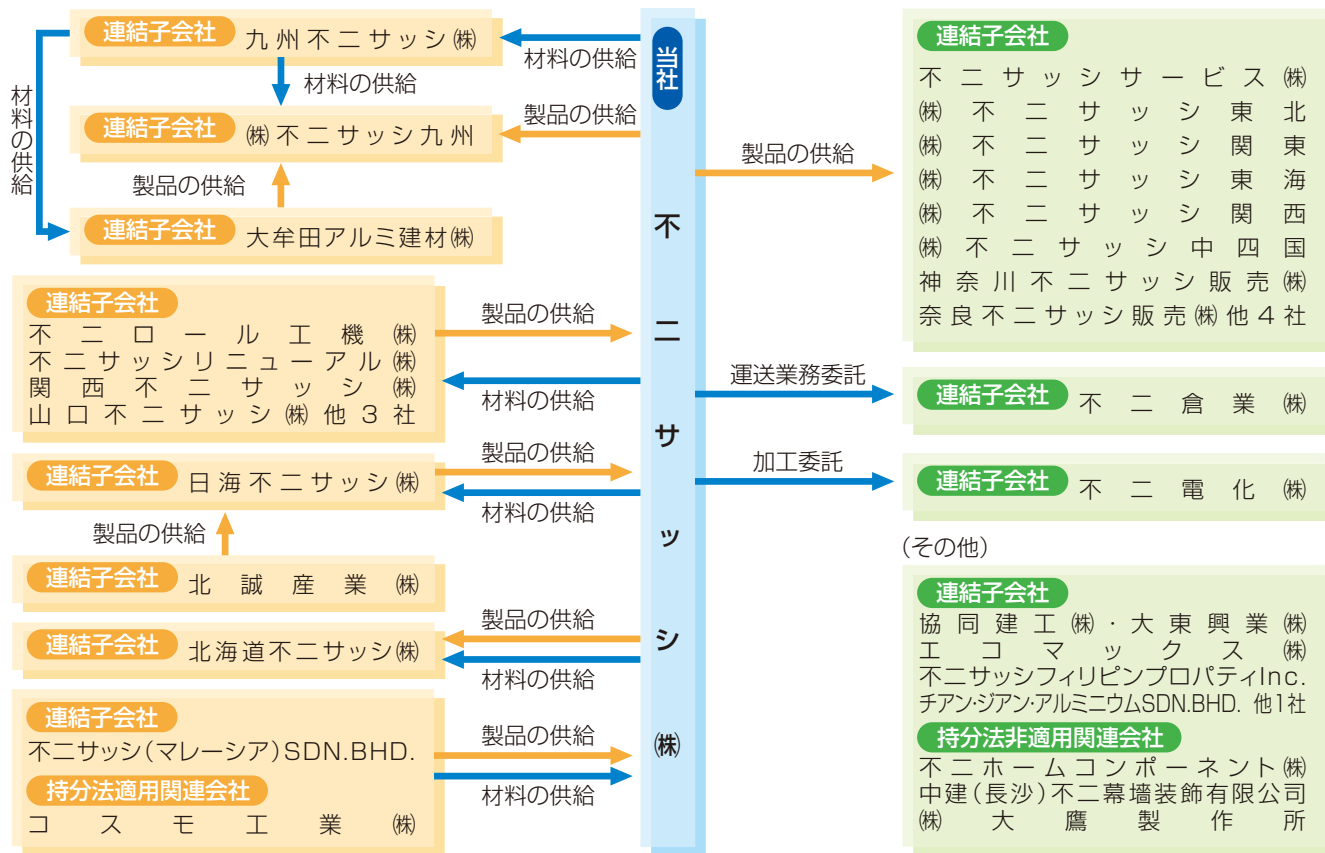
株主資本等変動計算書

(単位：百万円)

当事業年度 (平成18年4月1日から平成19年3月31日まで)

	株主資本							評価・換算差額等		純資産合計
	資本金	資本剰余金		利益剰余金		自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
		資本準備金	資本剰余金 合計	その他 利益剰余金 繰越利益 剰余金	利益剰余金 合計					
平成18年3月31日 残高	15,678	7,000	7,000	△ 21,777	△ 21,777	△ 4	896	1,032	1,032	1,929
事業年度中の変動額										
資本準備金の取崩		△ 7,000	△ 7,000	7,000	7,000		—			—
新株予約権付社債の行使	201	198	198				400			400
当期純利益				8,015	8,015		8,015			8,015
自己株式取得						△ 0	△ 0			△ 0
減資	△ 14,777			14,777	14,777		—			—
株主資本以外の項目の事業年度 中の変動額 (純額)							—	△ 602	△ 602	△ 602
事業年度中の変動額合計	△ 14,575	△ 6,801	△ 6,801	29,792	29,792	△ 0	8,414	△ 602	△ 602	7,811
平成19年3月31日 残高	1,102	198	198	8,015	8,015	△ 5	9,311	429	429	9,741

不二サッシグループ概要図



主な営業拠点

- 本社 〒212-0058 神奈川県川崎市幸区鹿島田890-12 (044) 520-0034
- 東京本部 〒141-0032 東京都品川区大崎5-6-2 (03) 5745-1204
- 千葉工場 〒290-0067 千葉県市原市八幡海岸通13 (0436) 41-3131
- 大阪工場 〒569-0062 大阪府高槻市下田部町2-55-1 (072) 661-6301
- 北海道不二サッシ(株) 〒060-0061 北海道札幌市中央区南一条西12-4-89 (011) 261-8284
- 東北支店 〒980-0014 宮城県仙台市青葉区本町2-16-10 (022) 222-4134
- 関東支店 〒330-0061 埼玉県さいたま市浦和区常盤9-20-3 (048) 829-2751
- 東京支店 〒141-0032 東京都品川区大崎5-6-2 (03) 5745-1250

- 横浜支店 〒220-8116 神奈川県横浜市西区みなとみらい2-2-1-1 (045) 210-9080
- 名古屋支店 〒450-0002 愛知県名古屋市中村区名駅4-2-25 (052) 582-7511
- 日海不二サッシ(株) 〒920-0352 石川県金沢市観音堂町へ-41-4 (076) 267-1231
- 大阪支店 〒541-0047 大阪府大阪市中央区淡路町3-5-13 (06) 4706-4134
- 中四国支店 〒733-0001 広島県広島市西区大芝2-7-32 (082) 509-2234
- (株)不二サッシ九州 〒810-0041 福岡県福岡市中央区大名2-4-22 (092) 741-6031
- シンガポール支店 BLOCK3017 BEDOK NORTH STREET5, #04-01 GOURMET EAST KITCHEN, SINGAPORE 65-6848-6470

関西不二サッシ株式会社

Kansai Fujisash Co.,Ltd

所在地：大阪府高槻市下田部町2-55-1
 創立：2000年7月
 代表者：代表取締役社長 高浪昭一
 従業員：260名
 資本金：1億円
 売上高：66億円
 事業内容：アルミサッシの製造、販売、施工



関西不二サッシ(株)はお客様の声を大切にし業界一の品質と高い生産性でお応えし続けることを目指しております。

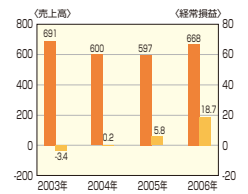
当社は、1968年（昭和43年）に不二サッシ(株)大阪工場として設立されて以来、西日本における主要生産拠点として操業してまいりましたが、更なる地域対応力の強化を目的に、2000年（平成12年）10月に事業を継承し、関西不二サッシ(株)として独立し今日に至っております。

また、関西市場の中央に位置する立地を活かし、お客様のご要望を最優先に考え、大阪工場から引継いだ高品質商品を作る製造技術を生かし、地域社会および不二サッシグループに貢献しております。

事業内容といたしましては、硝子入り大型CWユニットから集合住宅サッシまでのあらゆるタイプの生産を行うビル建材部門（売上比57%）と、受注後2日で納品する生産システムの住宅建材部門（売上比40%）を事業の柱として運営しております。更に2004年（平成16年）から取組んでおります加工品部門も順調に業績に寄与し始めており、今後の伸びに期待ができるものと考えております。

当社は、今後とも、環境問題に配慮し、また、少子高齢化社会に柔軟に対応しながら企業としての社会的責任を果たすために、地道な活動を推進してまいります。

売上高 経常損益の推移 (単位:千万円)



(沿革)

- 1968年（昭和43年） 不二サッシ(株)大阪工場として、アルミサッシの一貫生産を開始
- 1986年（昭和61年） 工業標準化実施優良工場として、大阪通商産業局長賞受賞
- 1989年（平成元年） 第一種無災害記録（220万時間）達成
- 1989年（平成元年） 工業標準化実施優良工場として、工業技術院長賞を受賞
- 1993年（平成5年） 工業標準化実施優良工場として、通商産業大臣賞を受賞
- 2000年（平成12年） 関西不二サッシ(株)として独立

(表示許可取得)

- 1970年（昭和45年） 公共住宅用規格部品（KJ製品）認定工場
- 1971年（昭和46年） JIS A4706表示認定（サッシ）
- 1975年（昭和50年） 優良住宅部品（BL製品）認定工場
- 1987年（昭和62年） JIS A4702表示認定（ドアセット）
- 1998年（平成10年） ISO 9002認証取得
- 2001年（平成13年） アルミニウム製防火戸（防火設備）の委託製作工場
- 2001年（平成13年） ISO 14001認証取得

不二サッシグループは非サッシ事業の拡大策のひとつとして、下記商品を市場に展開しております。2006年度には、災害用非常時トイレ（カンタン君）の発売を開始し、社会貢献につとめつつ、非サッシ事業の拡大に努めてまいります。

非常時対応型折りたたみ式トイレ
商品名 カンタン君



災害時、通常の水洗トイレが使用できない場合に備えて、公園や学校等の広域避難所で使用されることを想定しています。通常は、下部便槽兼倉庫に部品を収納し、災害時には、折りたたみ式工法の採用で短時間で組み立てることができます。しかも250人で約1ヵ月強の使用が可能、ライフラインが復旧するまでの役割を十分に果たすことができます。

夜も安心してご利用頂けるよう太陽光発電を利用したLED照明も取り付けることが可能です。

地上デジタル放送局舎
収納箱（シェルター）



2011年のデジタル放送化に向けた地上デジタル放送局舎を開発いたしました。同局舎は、非常に厳しい環境・立地条件に設置されることが多く、耐候性・耐久性・断熱性が要求されます。50mm厚の断熱材にカラーアルミ板を貼り合わせたパネル材で構成されたメンテナンスフリーの優れたシェルターです。

単体と2階建てタイプを標準品とし、様々なサイズバリエーションに対応できるようにパネルの規格化と独自の接合構造を採用することにより現場での施工性に優れ、積雪地域にも安心して設置できます。

オフィスシリーズ
商品名 ユニスペースSK



コンパクト設計で移動・設置が簡単に連棟可能なユニットハウスです。壁パネルはサイズや機能が選択出来るので、お客様の用途に合わせて間取りを自由に変えられます。また、屋根と壁にはウレタンを注入した一体形成パネルを採用。また、従来サイズに1坪～5坪サイズも加え、さらに充実しました。

● 環境に配慮した高断熱ビルサッシシリーズをフルラインナップ！

Super70シリーズ

05年より発売を開始したSuper70シリーズに、高層階仕様のスライディングサッシとプロジェクトサッシ、框扉、AT仕様を品揃えし、同シリーズのフルラインナップが完了しました。これにより同シリーズによる、豊富な連段窓等の組み合わせが可能になりました。

Super70シリーズは、アルミサッシの枠見込みとしては最も基本的な70mmサッシでありながら、既存商品のガラス溝巾では難しかった断熱性能の高い空気層12mmの複層ガラスの組み込み（ガラス溝巾36mm）を可能としました。また、枠に熱伝導率の低い特殊ポリウレタン樹脂とアルミの複合材を採用し、より断熱性能の高い断熱性能H-3をクリアします。（省エネ等級表示「☆☆☆」）



ジェイナスシリーズ

03年に発売を開始し「04年度グッドデザイン賞」を受賞したアルミ木材複合サッシ「ジェイナス」の第三弾としてプロジェクト窓「ジェイナスウィンドウ」を発売し、ジェイナスシリーズのフルラインナップが完了しました。

ジェイナスは内部の見え掛かり部には、暖かみを感じさせる天然木集成材を使用し、外部は耐久性に優れたアルミ材材を使用しているため、安定した高いサッシ性能と、内部の意匠性を同時に実現できる複合サッシです。枠は特殊ポリウレタン樹脂との複合断面、框は天然木との複合断面であるため優れた断熱性能を発揮し、空気層6mmの複層ガラスを使用して断熱性能H-3をクリアします。（省エネ等級表示「☆☆☆☆」）



不二サッシ

株主メモ

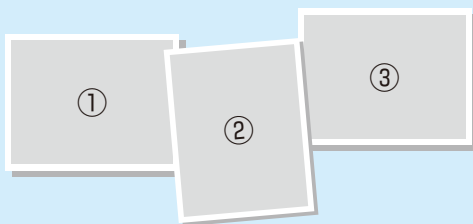
事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月に開催
期末配当基準日	3月31日
中間配当基準日	9月30日
その他の基準日	上記の他、必要があるときは、あらかじめ公告して定めます。
株主名簿管理人	東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社
同事務取扱所 (郵送物送付先) (お問合せ先)	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 中央三井信託銀行株式会社 証券代行部 TEL. 0120-78-2031 (フリーダイヤル)
同取次所	中央三井信託銀行株式会社 全国各支店 日本証券代行株式会社 本店および全国各支店
単元株式数	100株
公告方法	電子公告により行います。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。 公告掲載URL http://www.fujisash.co.jp/

ホームページをご利用ください。



ホームページアドレス <http://www.fujisash.co.jp/>

●表紙写真説明



①NHK神戸放送会館

所在地：兵庫県神戸市

設計、施工：(株)大林組・(株)日本設計・(株)イチケン特定建設工事設計・施工連合体

②(株)オンワード樺山仙台支店

所在地：宮城県仙台市

設計：(株)三菱地所設計

施工：鹿島建設(株)

③八千代町役場庁舎

所在地：茨城県結城郡八千代町

設計：(株)梓設計

施工：鈴鐘・高塚特定建設工事共同企業体

不二サッシ株式会社

〒212-0058

神奈川県川崎市幸区鹿島田890番地12 Tel. (044) 520-0034